

巻の六

三十一

*Faint handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the Japanese text on the opposite page.*

さう夜

若狭守勝後朝臣

山よ山衆にぞあつ寸みやふちのくしてさわひと  
幾さいしつゝもあはれしを候へる道宿よ若狭に  
をあるひ遠あつて美にあつてまゝさきあはれ  
わづらひしやれはれをよひし奥のよみよらとを  
よすらふやましくしよふとあへくき根のみ根の若  
らむしつゝもあつてつゝ若根のさつとつゝつゝ  
しつゝあつてつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
きつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

巻の六

三十一

あはれ岩乃戸ノ一にすきそめあひし一門をさ  
入より道もあをさうく志ありとあへる蓬の松乃  
まろくは色替く杖をわき池の水草は庭も花と  
川より枝とあましつとあましたるくは松むじ  
乃きすさうゆるとをまやなくすむじのき  
いつまをま替く身乃けくもむじとあまつは  
あまゆへあつさうあまゆへ松をさうま  
うもあま道乃一のま替んとあまゆへ  
すまもたつあつすゆとさ乃ほとあまゆへ  
ま替るつるとまをまに入ゆふとあまゆへ

まふあへ志乃ふ替くもあつすまゆのふ事と  
も人もあま道と霧の毛衣とまをま替あへる  
ま乃汗ありみゆまをまゆ紙の端すまゆか  
いつまあてあまゆへまゆとせうまゆは  
まゆそつらまやせあつとあまゆへ  
まゆ乃つとまゆつらまゆま若とあまゆへ  
まゆのふあひまゆへまゆへ山家のまゆへ  
まゆのふとまゆへまゆへ  
まゆへまゆへまゆへ  
東方未明顛倒衣裳詩とつひとあまゆへ

きじさりとてはせしとあはれをふりてし  
 あはれをさしとてはせしとあはれをふりてし  
 物ねつふる道にさしとあはれをふりてし  
 裳のすそよりと落るふりてとあはれをふりてし  
 つとぬにあはれをさしとあはれをふりてし  
 きし夜は清く素木のゆらりとあはれをふりてし  
 買信のつとぬふりてとあはれをふりてし  
 乞しとあはれをさしとあはれをふりてし  
 一とてはせしとあはれをふりてし  
 不ろくことあはれをさしとあはれをふりてし

袖乃がとむしはせしとあはれをふりてし  
 甲をさのらぬ月のまらりとあはれをふりてし  
 ちたすさあはれをさしとあはれをふりてし  
 糸人しとあはれをさしとあはれをふりてし  
 故園白牡丹さしとあはれをふりてし  
 はつとあはれをさしとあはれをふりてし  
 ひとくちあはれをさしとあはれをふりてし  
 甲うしあはれをさしとあはれをふりてし  
 めとてあはれをさしとあはれをふりてし  
 のをさしとあはれをさしとあはれをふりてし



東と云ふも子鴻もあはれあす秋盡さつと意  
乃をくこひせこの長は弱とあらとわもか  
らす事と云ふも教へて意坂の岡おく戸出  
を忘る西の年人の薩摩の沖乃小鴻を波  
を對馬乃海も波乃波也さすもあらと云ふ  
きの王氣長是姫のきりて東人の我國より  
ありゆりてあらと云ふもあらと云ふも  
一と云ふはの山もあらと云ふもあらと  
あらと名つと云ふも將軍は使つと云ふも  
と云ふははらもあらと云ふもあらと云ふ

ひんあはむのともあつて中納言と関ゆふは婚  
乃館よりそれまう中納言のあらと云ふも  
むあらのはあらと云ふもあらと云ふも  
と云ふははらもあらと云ふもあらと云ふも  
と云ふははらもあらと云ふもあらと云ふも  
かううら樂もあらと云ふもあらと云ふも  
乃らあはむのともあつて中納言と関ゆふは婚  
と云ふははらもあらと云ふもあらと云ふも  
納言利家備前の中納言秀家侍入宰相中納言侍  
従かすすもあらと云ふもあらと云ふも



公海にめらうとなく千里もゆくさ烟をみそみ氏  
 のかきとふきはあ人じから事と物もほす人  
 津女ひとりもゆくす大改前とささあむじやく  
 うをさうとさけのぬあうりいああらまか  
 ああさあひも入る出るくく秋あうく目を  
 さゆしてとらあさうさうさあめさ月乃も  
 出乃とふたそのうああふもさうにやかの改  
 所とあいつさささくまうふ糟糠のぬまをか  
 裳よりとくさあああああああああああああ  
 孫らさああああああああああああああああ

とさあああああああああああああああああ  
 うふさくー孫れをきさうあくもを乃はの  
 らあをのよはあうひあもあー文王の大姫は  
 かくううもさあは君子のう記あくひなう人  
 兼花物語ー一條院の法代の事石中宮女津更  
 衣あさ乃はあうもあよりあはる建乃は朝夜も  
 いあううもああああああああああああああ  
 津雲殿の法成寺をあああああああああああ  
 ことれうすあもああああああああああああ  
 門のあううああああああああああああああ



赤小地にて赤赤深きしむとほくふまのやまらう  
 をまろのちあふおろくにく春林のさくらさう  
 ねあひしむちあふはあふあははすささくら世  
 へささるるさうはあふ月花のあふささくらさ  
 きあふさやひしむくめらうすませまふられ行  
 のふしこれ由水谷のみやこの殿と衆楽をゆと  
 ありしむきあふさあふさあふさあふさあふさ  
 地一承この縁さうして北中をささくらさう  
 ひさしあふさうにさうさあふさあふさあふさ  
 あまをせくともあふさあふさあふさあふさ

きさあふさうさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 け寶をさうさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 しはあふさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 夢さうさあふさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 あふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 やそもさあふさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 らむさあふさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 ともさあふさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 さあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさ  
 地あふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさ



卷四十一

三十一

うひとつとふえのささめ老くらりふ  
いのふもれうひとそ

右さう衣以技桑拾葉集技合了



羣書類後卷第四百八十一

一九九二年二月  
内閣府  
蔵

